

令和7年度「とちぎっ子学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立ゆいの杜小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和7年度「とちぎっ子学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

本県児童生徒の学力や学習の状況等を把握・分析し、児童生徒一人一人の課題を明確にするとともに、各学校が組織的に学習指導における検証改善サイクルの構築・運用に取り組むことにより、本県児童生徒の学力向上に資する。

2 調査期日

令和7年4月17日(木)

3 調査対象

小学校 第4学年、第5学年（国語、算数、理科、質問調査）

中学校 第2学年（国語、社会、数学、理科、英語、質問調査）

4 本校の実施状況

第4学年 国語166人 算数166人 理科166人

第5学年 国語145人 算数145人 理科145人

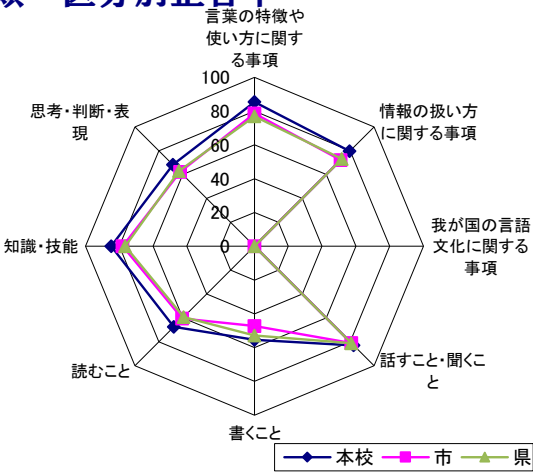
5 留意事項

- (1) 本調査は、対象となる学年、実施教科が限られていることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立ゆいの杜小学校 第4学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使い方にに関する事項	85.4	78.6	76.9
	情報の扱い方にに関する事項	79.6	72.2	73.1
	我が国の言語文化に関する事項	0.0	0.0	0.0
	話すこと・聞くこと	83.0	81.0	81.1
	書くこと	55.4	47.2	52.8
	読むこと	67.4	60.5	59.3
観点	知識・技能	84.8	78.0	76.5
	思考・判断・表現	68.3	62.3	63.1



★指導の工夫と改善

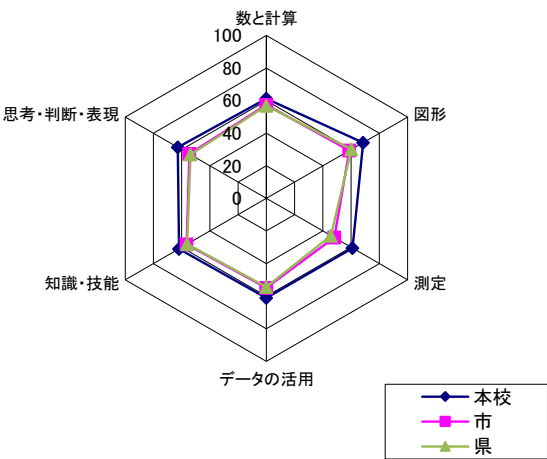
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方にに関する事項	平均正答率は85.4%で、県の平均を8.5ポイント上回っている。 ○漢字を正しく読んだり書いたりする問題では、ほとんどの問題で県の平均を上回っている。 ●文中の主語と述語の関係を捉えることに、課題がみられる。	・今後も漢字50問テストやミニテストを定期的実施し、繰り返し練習することで、知識の定着を図っていきたい。 ・主語が何かを意識して、文を読んだり書いたりする活動を取り入れ、文の組み立てについて、理解を深めていけるよう指導する。
情報の扱い方にに関する事項	平均正答率は79.6%で、県の平均を6.5ポイント上回っている。 ○国語辞典の使い方にに関する問題では、県の平均を6.5ポイント上回っている。	・引き続き、授業の中で辞書の使い方を理解させるとともに、辞書を引く活動を積極的に取り入れ、使用する機会を増やすことにより、さらに、国語辞典の使い方の定着を図っていききたい。
話すこと・聞くこと	平均正答率は83.0%で、県の平均を1.9ポイント上回っている。 ○県の平均はやや下回っているが、話し手が伝えたいことの中心を捉える問題の正答率は90.1%と高い。 ●司会の役割を果たしながら話し合い、参加者の発言を基に、考えをまとめることについては、課題がみられる。	・相手の伝えたい内容や、話の中心を捉えて聞く練習を継続し、聞く力を高めるよう指導していく。 ・話し合い活動で、司会者、提案者などそれぞれの役割を明確に示すことで、役割を意識しながら話し合い活動が進められるように指導する。
書くこと	平均正答率は55.4%で、県の平均を2.6ポイント上回っている。 ●どの項目も県の平均を上回っているが、正答率は60%に届いていない。特に、段落の役割について理解し、2段落構成で文章を書くことについては、課題がみられる。	・指定された長さや条件に合わせて、構造的に正しい文章が書けるように、作文学習などを通して、文章を書く力の定着を図る。
読むこと	平均正答率は67.4%で、県の平均を8.1ポイント上回っている。 ○登場人物の気持ちについて、叙述を基に捉える問題では、県の平均を7.1ポイント上回っている。 ●情報と情報との関係について理解し、中心となる語や文を見つけて要約することについては、課題がみられる。	・読書活動を継続的にを行い、さらに、文章を読むことに親しませていきたい。 ・引き続き授業の中で、中心となる語や文を見付ける活動を丁寧に行っていく。また国語だけでなく、他教科でも、授業の中心となる語や文を用いてまとめられるように、意識しながら指導していく。

宇都宮市立ゆいの杜小学校 第4学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	61.2	57.4	56.9
	図形	68.5	58.7	60.1
	測定	61.0	48.1	45.7
	データの活用	61.1	54.9	54.3
観点	知識・技能	62.0	56.6	56.2
	思考・判断・表現	62.8	54.5	53.8



★指導の工夫と改善

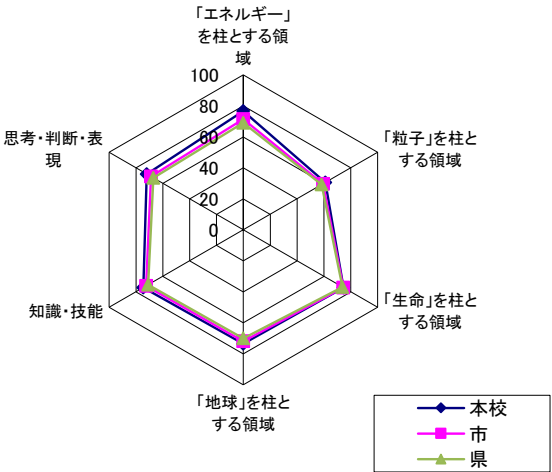
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	平均正答率は61.2%で、県の平均を4.3ポイント上回っている。 ○余りを切り上げて答えを求める問題では、県の平均を14.5ポイント上回っている。 ●繰り上がりや繰り下がりのある計算に課題が見られる。特に、3けた－3けたの計算は、県の平均を9.0ポイント下回っている。	・筆算をする場合には、繰り上がりや繰り下がりの数字を必ず記入させ、正確に計算できるように指導する。
図形	平均正答率は68.5%で、県の平均を8.4ポイント上回っている。 ○球の半径・直径を利用する問題と、二等辺三角形の性質についての問題は、県の平均を大きく上回っている。 ●球を平面で切った切り口の形の問題では、県の平均を1.8ポイント下回っている。	・球の学習では、実際に具体物で切り口を確認させ、実感を伴った理解につなげる。 ・円と球についての学習では、円の直径と半径の関係を考えさせたり、説明させたりするなど、今後も継続して問題に取り組ませていく。
測定	平均正答率は61.0%で、県の平均を15.3ポイント上回っている。 ○全ての問題で、県の平均を上回っている。 ●はかりの目盛りを読み取る問題では、県の平均を上回っているが、正答率は47.5%と低い。	・重さの問題では、はかりの目盛りを正しく読み取ることができるよう、1目盛りが表す大きさの見極め方の確認をし、定着を図る。また、実際に具体物を測定する機会を設け、生活で活用できるよう指導していく。
データの活用	平均正答率は61.1%で、県の平均を6.8ポイント上回っている。 ○2つの棒グラフや表を比べ、傾向を読み取ったり活用したりする問題では、県の平均を5.6ポイント上回っている。 ●示されたテーマについて適切なグラフを選び、そのわけを説明する問題では、県の平均を上回っているが、正答率は48.2%と低い。	・目的に合わせてグラフや表を読み取り比較することで、適切にデータを活用することができるようにさせる。 ・グラフや表のどこに着目して読み取るのか、根拠をもって説明する活動を通して、統計的な見方・考え方を養っていく。

宇都宮市立ゆいの杜小学校 第4学年【理科】 分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	「エネルギー」を柱とする領域	76.6	71.4	69.1
	「粒子」を柱とする領域	61.0	59.3	58.3
	「生命」を柱とする領域	74.6	74.5	73.8
	「地球」を柱とする領域	73.5	72.0	70.1
観点	知識・技能	74.5	72.5	70.9
	思考・判断・表現	72.0	68.8	67.1



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
「エネルギー」を柱とする領域	平均正答率は76.6%で、県の平均を7.5ポイント上回っている。 ○風の強さによって動く距離が変化する問題では、県の平均を17.1ポイント上回っている。 ●鏡ではね返した日光の重なり方によって暖かさが変わることを理解する実験では、県の平均より5.4ポイント上回っているが、正答率が63.8%と低い。	・実験の結果から考察し、結論づけた普遍的な事実を、状況や問題が変わっても活用できるよう、生活に当てはめて考えたり、条件を変えて生かしたりする活動を取り入れていく。
「粒子」を柱とする領域	平均正答率は61.0%で、県の平均を2.7ポイント上回っている。 ○重さを比較しながら調べ、はかりを正しく用いて調べる問題では、県の平均を4.3ポイント上回っている。 ●ものの形の違いによる重さの変化について予想を基に実験結果を構想する問題では、県の平均を2.5ポイント上回っているが、本校の正答率は29.5%と低い。	・問題文の趣旨をよく理解させ、問題と予想を関連付けて思考させる場面を設定していく。
「生命」を柱とする領域	平均正答率は74.6%で、県の平均を0.8ポイント上回っている。 ○クモとモンシロチョウの体のつくりや足の数を比較しクモが昆虫かどうか考える問題では、県の平均を16.2ポイント上回っている。 ●植物の体のつくりについて比較し共通点を記述する問題について、県の平均を7.1ポイント下回っている。	・昆虫についての理解は高いが、植物についての理解が低いため、今後も自然に親しむ機会を設定していく。 ・観察において、動植物の共通点や差異点を比較しながら記録する活動を継続的に取り入れていく。
「地球」を柱とする領域	平均正答率は73.5%で、県の平均を3.4ポイント上回っている。 ○日なたと日陰で地面の温度を調べた結果を適切にまとめた記録を選ぶ問題では、県の平均を7.6ポイント上回っている。 ●方位磁針の正しい使い方が身に付いているかをみる問題では、県の平均を1.7ポイント下回っている。	・今後も実験器具の使い方を指導するとともに、実際に使用する場面を多く設けて、理解の定着につなげる。

宇都宮市立ゆいの杜小学校 第4学年 児童質問調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「学校の宿題は、自分のためになっている」の肯定的割合が95.2%%となっており、県の平均を上回っている。また、各教科の「学習は、将来のために大切だと思いますか」の肯定的割合が全て9割を上回っており、学習が自分のためになっているという意識が根付いていると考えられる。引き続き、学習が生活と結びついていることや、自分の将来について考える時間を設け、学習意欲を高められるようにしていきたい。

○「できるだけ自分一人の力で課題を解決しようとしている」の肯定的割合が県の平均を上回っている。引き続き、授業において基礎・基本の定着を図り、児童の挑戦心や探究心を喚起することを行っていきたい。

○「家の人と学校での出来事について話をしている」「自分は、家族の大切な一員だと思う」の肯定的割合が県の平均を上回っており、児童と家庭との良好な関係が伺える。

○「次の教科の授業の内容はよく分かりますか」の肯定的割合は、ほとんどの教科において県の平均を上回っており、児童が学習面において理解を深めていることが分かる。

●「クラスの友達との間で、話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができる」の肯定的割合が、県の平均を下回っている。ペア学習や少人数での話し合い活動を授業で積極的に取り入れ、話し合いの仕方を定着させたり、自信をもたせたりすることで、話し合い活動に対する意欲を高めていきたい。

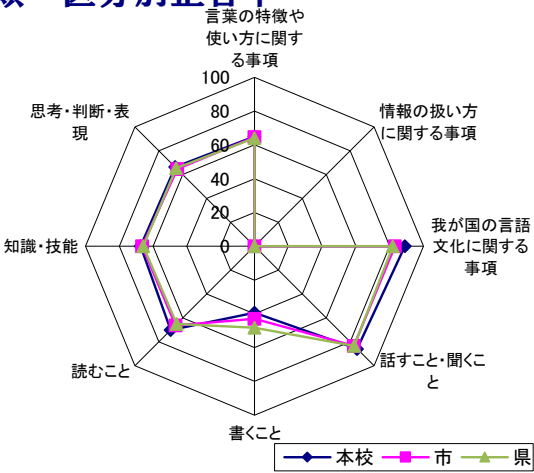
●「早寝、早起きを心がけている」の肯定的割合が、県の平均を下回っている。日頃から睡眠の大切さを意識づけるとともに、家庭と連携し、規則正しい生活や十分な睡眠時間を確保することの大切さを喚起していく。

●「授業で分からないことがあると、先生に聞くことができる」の肯定的割合が県の平均を下回っている。日頃から児童の様子に目を配り、声を掛けるなど児童との関係づくりを大切にすることで、質問しやすい環境を構築する。

宇都宮市立ゆいの杜小学校 第5学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使い方にに関する事項	65.0	64.7	64.1
	情報の扱い方にに関する事項	0.0	0.0	0.0
	我が国の言語文化に関する事項	89.0	83.1	81.9
	話すこと・聞くこと	85.9	83.3	83.4
	書くこと	39.3	42.8	48.2
	読むこと	70.1	66.1	65.1
観点	知識・技能	67.4	66.5	65.9
	思考・判断・表現	66.3	64.6	65.5



★指導の工夫と改善

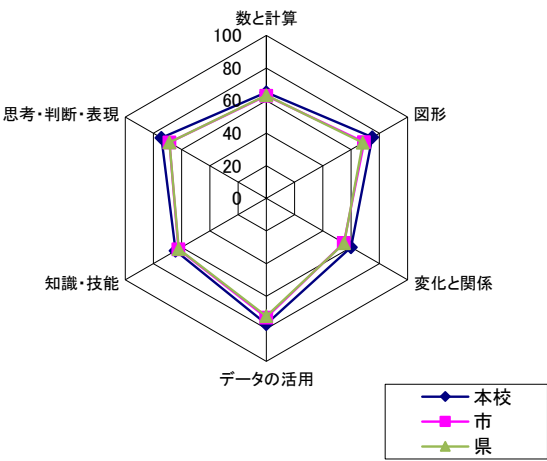
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方にに関する事項	平均正答率は65%で、県の平均を0.9ポイント上回っている。 ○文を読み気持ちを表す語として適する語を選ぶ問題では、正答率が高く、県の平均を上回っている。 ●熟語の漢字の組み合わせの種類が同じものを選ぶ問題では、県の平均を12.3ポイント下回っている。	・意味調べをさせたり漢字練習をするときに漢字の組み合わせについてふれたりする学習を取り入れることで、熟語の意味を捉えることができるようにする。
我が国の言語文化に関する事項	平均正答率は89%で、県の平均を7.1ポイント上回っている。 ○ことわざの使い方を理解し正しく使っている文を選ぶ問題では、県の平均を7.1ポイント上回っている。	・今後もことわざを日常的に紹介していく。
話すこと・聞くこと	平均正答率は85.9%で、県の平均を2.5ポイント上回っている。 ○自分の考えを理由をあげながらまとめる問題では、県の平均を4.1ポイント上回っている。 ●話し手の工夫の共通点を説明した文として適するものを選ぶ問題では、県の平均を0.4ポイント下回っている。	・意見の述べ方の工夫を指導したり、普段の授業で友達の意見の述べ方の良い点を考えさせたりするなどして、聞く力を身に付けていく。
書くこと	平均正答率は39.3%で、県の平均を8.9ポイント下回っている。 ●書く領域ではすべての問題で県の平均を下回っており、特に指定された長さで文章を書く問題では、県の平均を11.8ポイント下回っている。	・普段から日記を書くことに慣れさせたり、段落を分けるなどの条件をつけて作文を書かせたりしていく。
読むこと	平均正答率は70.1%で、県の平均を5ポイント上回っている。 ○話合いの様子を読み、文章の内容と合っていることを話している人物を選ぶ問題では、県の平均を8.6ポイント上回っている。 ●情報と情報との関係について理解し中心となる語や文を見付けて要約する問題では、県の平均を0.1ポイント下回っている。	・文章中の大切な言葉や段落ごとの内容を捉えさせたり、文章の構成を理解したりして、文章を的確に要約することができるよう指導していく。 ・普段から読書活動を推進し、文章を読むことに慣れさせる。

宇都宮市立ゆいの杜小学校 第5学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	65.1	63.0	63.3
	図形	75.0	69.2	68.3
	変化と関係	60.0	54.8	55.0
	データの活用	77.1	73.1	72.3
観点	知識・技能	64.3	62.3	62.1
	思考・判断・表現	74.4	68.7	68.7



★指導の工夫と改善

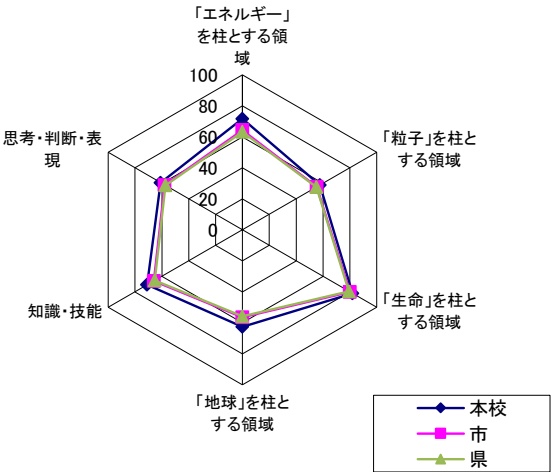
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	平均正答率は65.1%で、県の平均を1.8ポイント上回っている。 ○計算のきまりを理解し、間違いを説明する問題は、県の平均を9.7ポイント上回っている。 ●小数のしくみを理解し、もとにする小数のいくつかで大きさを比べる問題は、県の平均を12.5ポイント下回っている。	・自分なりに考えたことを図や式、言葉などを使って説明したり、友達に伝えたりする機会を設けることによって、さらに豊かな表現力を育んでいく。 ・小数の大きさについて、図や数直線を用いることによって視覚的にも理解させ、整数と同じしくみであることに気づかせる。
図形	平均正答率は75.0%で、県の平均を6.7ポイント上回り、さらに、すべての問題で県の平均を上回っている。 ○三角定規を組み合わせてできた角の大きさを求める式を立てる問題は、県の平均を8.6ポイント上回っている。 ●三角定規を組み合わせてできた角の大きさを求める問題では、県の平均を4ポイント上回ったが、正答率57.9%と低い。	・図形を構成する要素に着目して図形を観察したり、構成したりする活動を大切にすることにより、実感をともなった理解と図形についての豊かな感覚を高める。 ・三角定規のそれぞれの角の大きさについて十分定着するように、繰り返し授業で扱っていく。
変化と関係	平均正答率は60.0%で、県の平均を5ポイント上回っている。 ○伴って変わる2つの数量の関係を式に表す問題では、県の平均を7.8ポイント上回っている。 ●割合が基準量の何倍かで求められるかか理解しているかどうかをみる問題では、県の平均を5ポイント上回ったが、正答率は44.8%と低い。	・2つの変化する数量の関係を表や式に整理したり、グラフに表したりして調べる活動を通して、それぞれの数学的表現の特徴やよさに気付かせることによって関数的な見方を伸ばしたい。 ・基準量、比較量、割合の関係を正しく捉えることに課題があると考えられる。数量の関係をテープ図や数直線に表し、視覚的に捉えられるようにする。
データの活用	平均正答率は77.1%で、県の平均を4.8ポイント上回り、さらに、すべての問題で県の平均を上回っている。 ○折れ線グラフと棒グラフの複合グラフから、傾向を読み取れることとして、正しいことを選ぶ問題では、県の平均を7.2ポイント上回っている。 ●二次元の表の意味を理解しているかどうかをみる問題では、無回答率が11.0%であった。	・グラフから読み取れる事柄を発表したり、グラフのどこに着目して読み取ったのかを根拠をもって説明したりする活動を通して、統計的な見方・考え方をさらに養っていく。 ・二次元の表の読み取りにつまずきがある児童に対して、それぞれの数値が何を表しているのかを理解し、説明できるように繰り返し指導していく。

宇都宮市立ゆいの杜小学校 第5学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	「エネルギー」を柱とする領域	71.7	64.3	63.2
	「粒子」を柱とする領域	57.7	55.4	55.1
	「生命」を柱とする領域	82.0	80.1	79.3
	「地球」を柱とする領域	62.6	56.4	55.8
観点	知識・技能	71.0	66.0	65.3
	思考・判断・表現	60.9	57.9	57.4



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
「エネルギー」を柱とする領域	平均正答率は71.7%で、県の平均を8.5ポイント上回っている。 ○回路の乾電池の向きを入れ替えた際の、簡易検流計の針の振れ方を示した図を選ぶ問題では、県の平均を13.5ポイント上回っている。 ●乾電池の数やつなぎ方が異なる3つの回路のうちプロペラが同じ速さで回転するものを選ぶ問題では、県の平均を上回っているが、正答率が62.1%と低い。	・乾電池1個、直列つなぎ、並列つなぎの時の簡易検流計やモーターの動きを比べて、針のふれ方やモーターの回り方を実際に確認する場面を設ける。
「粒子」を柱とする領域	平均正答率は57.7%で、県の平均を2.6ポイント上回っている。 ○1つのピストンに水と空気を閉じ込めて圧す実験の結果を示した図を選ぶ問題では、県の平均を11.9ポイント上回っている。 ●温められた空気の動き方を答える問題では、県の平均を2ポイント下回っている。	・空気のあたたまり方を学習する際に、エアコンの冷房や暖房、ストーブ、送風機などを、暮らしの中でどのように利用しているのかを話題にして、生活と関連して考えることができるようにする。
「生命」を柱とする領域	平均正答率は82.0%で、県の平均を、2.7ポイント上回っている。 ○サクラの夏の様子について理解しているかどうか問う問題では、県の平均を5.8ポイント上回っている。 ●骨のはたらきを説明した文章をすべて選ぶ問題では、県の平均を7.7ポイント上回っているが、正答率は49.7%と低い。	・骨と筋肉について学習する際に、骨や筋肉の動き方を確かめるとともに、その働きについても確認することで、理解を深めていく。
「地球」を柱とする領域	平均正答率は62.6%で、県の平均を6.8ポイント上回っている。 ○窓に結露が発生する理由と、結露の水滴がつく場所について述べた文章に当てはまる語句を選ぶ問題では、県の平均を15.3ポイント上回っている。 ●実験結果から水たまりのできにくい地面を選び、その理由を考える問題では、県の平均を2ポイント上回っているが、正答率が43.5%と低い。	・水がしみこむ時の速さを比べる実験では、どうしてそのような結果になったか、粒の大きさや水の落ちる時間に着目し、考察していく。普段の授業から、複数の事柄を関連付けたり、結果が生じる理由に着目したりして、考察する活動を取り入れていく。

宇都宮市立ゆいの杜小学校 第5学年 児童質問調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「家で、自分で計画を立てて勉強している」「家で学校の宿題をしている」「家で、学校や塾の決められた宿題のほかに自分で考えた勉強をしている」の肯定的割合が、県の平均を上回っている。家庭学習が習慣化していることや、家庭学習に意欲的に取り組んでいることが伺える。今後も、継続的に行うことができるよう支援していきたい。

○「学習して身につけたことは、しょう来的な仕事や生活の中で役に立つと思う」の肯定的割合が、県の平均を上回っている。目的意識をもって取り組んでいる様子が伺える。今後も、継続的に行うことができるよう支援していきたい。

○「ものごとを最後までやりとげて、うれしかったことがある」の肯定的割合が96.6%で、県の平均を上回っている。成就感や達成感が味わえるような支援を、今後も、継続的にしていきたい。

○「友達の前で自分の考えや意見を発表することは得意である」の肯定的割合が、県の平均を上回っている。しかし、好まない児童も多数いるため、クラスの発言しやすい雰囲気を大事にするなど、今後も継続的に支援していきたい。

●「家で、学校の授業の復習をしている」の肯定的割合が、61.1%で、県の平均を5.7ポイント下回っている。復習することによって、学習の定着を図ることの大切さや自分の為になっていることに気付けるよう、支援していきたい。

●「漢字の読み方や言葉の意味が分からない時は、辞書を使って調べている」「わからない国名や地名があったら、インターネットや地図帳を使って調べている」の肯定的割合が、県の平均を下回っている。わからないことがあったときに、自ら調べ解決しようとする態度を育てていきたい。

宇都宮市立ゆいの杜小学校（第4・5学年共通） 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
有効な話し合いを行い、考えを深めたり広げたりする工夫	<ul style="list-style-type: none"> 学校全体で、話し合いの観点と話型の作成を行い、発達段階に応じて指導している。 考えの深まりや変化が見られるような振り返りを学校全体で作成し、実践している。 	<ul style="list-style-type: none"> 「クラスの友達との間で、話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている」の設問で、肯定的回答した児童が、5年生は県の平均を上回っている。 「授業の最後に、学習したことをふり返る活動をよく行っている」の設問で、肯定的回答した児童が、どちらの学年でも県の平均を上回っている。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
「家で、学校の授業の予習をしている」という質問で4年生、5年生ともに、県の平均を下回った。	<ul style="list-style-type: none"> 家庭学習について、自分で課題を見つけて学習していく習慣を指導していく。 	<ul style="list-style-type: none"> 定期的に、自主学習ノートの見せ合いを行い、友達の良い学習方法や内容を見つけて、参考にできるようにしていく。 年2回の「家庭学習ふり返り週間」を、家庭学習をふり返る機会として、家庭と学校で協力して児童に指導をしていく。